

甲 第 号

久留野 紀子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第号	氏名	久留野 紀子
論文審査担当者	委員長	教授	矢野 寿一
	委員	教授	浅田 秀夫
	委員	教授	三笠 桂一
	(指導教員)		

主論文

Hand hygiene compliance in a universal gloving setting

ユニバーサルグラビングにおける手指衛生遵守率

Noriko Kuruno, Kei Kasahara, Keiichi Mikasa

American Journal of Infection Control

2017年発行予定

## 論文審査の要旨

本研究は、手指衛生遵守率調査方法のゴールドスタンダードである WHO の直接観察法を用いて、ユニバーサルグラビングにおける手指衛生遵守率を明らかにすること、ユニバーサルグラビングにおける手指衛生と手袋使用の関連性を明らかにすること、段階的に行う結果のフィードバックと教育が、手指衛生遵守率、手袋使用状況および MRSA 検出率に与える影響を明らかにすることを目的としたものである。対象は、奈良県立医科大学附属高度救命救急センター集中治療室の看護師とし、2011 年 6 月～2013 年 11 月を 5 期に分け手指衛生の直接観察（手指衛生機会数 6,050 機会）を行い、段階的に評価、教育を行った。ユニバーサルグラビングにおける手指衛生遵守率のベースラインは 16.1%であったが、手指衛生遵守率は 56.8%まで改善した。ユニバーサルグラビングにおける手指衛生遵守率は手袋使用と関連し、手指衛生の適応ごとに異なっており、連続的なケアの中で発生する清潔/無菌操作の前と体液暴露リスクの後の適応では低率であった。全体的な手指衛生遵守率の改善に伴い、ユニバーサルグラビングの遵守率は低下したが、新規 MRSA 検出率は低下した。ユニバーサルグラビングを導入する際には、WHO の推奨する 5 つの瞬間を組み入れ、手指衛生遵守率を直接観察法で評価することが医療関連感染症の防止において重要であることが示された。以上より、本研究によって、ユニバーサルグラビングにおいても手指衛生遵守改善が新規 MRSA 検出率を低下させることが明らかになった。

ユニバーサルグラビングは現在、感染対策の基本とされている標準予防策や感染経路別予防策が推奨された後に報告された感染対策の手法である。今後もユニバーサルグラビングに限らず新たな感染対策の手法が提案・検証されていくことが予想されるが、どのような感染対策であっても適切な个人防护具の交換と手指衛生は欠かせないということを明らかにした。今後、本領域のさらなる発展に寄与する重要な研究と評価される。

## 参 考 論 文

1. Continuous ampicillin infusion as an alternative to intermittent infusion for adult inpatients: A case series  
Taku Ogawa, Kei Kasahara, Kazuro Ikawa, Junichi Shigeta, Yuko Komatsu, Noriko Kuruno, Kenji Uno, Koichi Maeda, Keiichi Mikasa.  
Journal of Infection and Chemotherapy 20: 653-655, 2014
  
2. 奈良県内の病院における手指衛生の状況に関するアンケート調査  
久留野紀子, 笠原敬, 梶浦一, 徳谷純子, 三笠桂一  
日本環境感染学会誌 28, 91-96, 2013
  
3. 短時間ラビング法の効果  
小林寛伊, 梶浦 工, 久留野紀子  
Journal of Healthcare-associated infection 2:48-49, 2009
  
4. 短時間ラビングによる手指衛生  
久留野紀子, 小林寛伊, 大久保憲, 梶浦 工, 比江島欣慎  
Journal of Healthcare-associated infection 2: 57-60, 2009
  
5. 尿道留置カテーテルにおける留置期間短縮への試み  
久留野紀子, 小林寛伊, 大久保憲, 比江島欣慎  
Journal of Healthcare-associated infection 2: 22-24, 2009
  
6. 小規模病院における滅菌コンテナシステム導入について  
久留野紀子, 蔵田淳子, 泉谷かな子, 植村信子  
医科器械学 7: 633-634, 2003

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに感染病態制御医学の  
進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 29 年 6 月 13 日

学位審査委員長

微生物感染症学

教 授 矢野 寿一

学位審査委員

皮膚科学

教 授 浅田 秀夫

学位審査委員（指導教員）

感染病態制御医学

教 授 三笠 桂一